

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0895100048		
法人名	社会福祉法人 木犀会		
事業所名	花水木岩瀬館	ユニット名(大空)	
所在地	茨城県桜川市岩瀬229-1		
自己評価作成日	令和 3 年 5 月 25 日	評価結果市町村受理日	令和 3年 9月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0895100048-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 いばらき社会福祉サポート
所在地	水戸市大工町1-2-3 トモスみとビル4階
訪問調査日	令和3年7月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自立支援の可能な利用者が入所されています。散歩や外気浴、裁縫、食事作りに参加され片付けも担当のように行っています。環境を整え安全に参加できるよう心掛けています。職員とのコミュニケーションも多く、また、認知症の進んでしまった利用者様とのコミュニケーションも使い分けながら、利用者様やその場に合わせ、工夫した支援を行っています。花水木岩瀬館カフェでは、おもてなしの担当、もてなししてもらう担当をその会ごとに交代で行い、生きいきとした時間を過ごして頂いています。地域の方や家族様をお招きしておもてなし出来る日が来ることを思いながら開催しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は学校や消防署が徒歩圏内にある市街地に立地し、近代的な建物で玄関前には小学生と職員がプランターに植えた花が沢山飾られ椅子とベンチが配置されている。管理者と職員は利用者が今出来ている事の継続、或いは自立出来るように「自立支援委員会」を設置し利用者に寄り添ったケアサービスを実践している。利用者は施設されていない玄関から自由に散歩に出かけたり、食事の調理を職員と一緒にを行う等、職員の見守りの支援で利用者も職員も笑顔でいられるよう理念に沿った支援をしている。また、学校帰りの子供たちがトイレを利用して遊んで行ったり、事業所で開催しているカフェには近隣住民が来る等地域に密着した事業所と言える。現在はコロナ感染予防で交流や外出ができないが、利用者の希望する場所にドライブで個別対応し外に出る機会を工夫している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己 自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念や事業所理念を会議等で復唱するなど理解を図り、これらの理念に基づいた支援につながるようにしている。	職員も利用者も笑顔で過ごせるように、1日1回「スキンシップ・お礼を言う・褒め合い」を、馴れ馴れしくない行動で実践することを基本目標としケアに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区会員となり子供100当番を継続、下校時の子供たちと交流することもある。地域イベントや学校でのイベントに参加している。	事業所はこども110番になっていたり、事業所前が小学生の登下校のコースとなっていることから、登下校の見守りをしている。子どもたちがトイレを借りに来たり、水を飲みに立ち寄りしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーターとして、桜川市認知症サポーター事業に参加し、高齢者支援事業等で認知症の啓発活動を行っている。(コロナ禍により参加が減少)		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回地区の代表、民生委員、家族様代表、利用者様代表、介護保険課職員の参加のもと、入居者情報、活動報告、行事見学、要望など話し合い意見を頂いている。コロナ禍により、昨年度より紙面での開催を実施している。	家族等の代表や利用者、市職員、民生委員等が参加して定期的に開催されているが、現在は書類での報告となり、委員からは意見が聞けていない。	議題や意見を得たい内容を具体的に提示するなどして意見を聞ける工夫を期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への参加や公的福祉サービスとの連携をとっている。(介護保険課、地域包括支援センター、社会福祉課、社会福祉協議会など)	介護保険更新時や生活保護受給者の相談、認定調査のことなどで窓口を頻繁に訪問している。地域包括支援センターと空室等の情報交換をしている。認知症サポーター講座に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会開催 拘束の内容について日頃何気なく行っている支援を再度検討課題に提示して日頃の支援の振り返り実施 例(スピーチロックについて)	身体拘束に関する指針を作成し、委員会を年4回開催してその中で研修が行われている。日頃何気なく行っている支援の振り返りを実施して、スピーチロック等も議題にあげて話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束適正委員会を通し、虐待防止についての意識を深め、事業所内で、また施設外でも虐待が安易に逃されないように努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者 介護支援専門員が権利擁護に関する制度を学ぶよう努めている。またパンフレットなどを利用し必要に応じてご家族や職員に伝えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時 理解しやすく丁寧な説明に心掛け、質問を受けるなどしてから同意して頂き契約の締結をしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議での要望や外部評価の家族アンケートを参考にしている。特に外部評価のアンケートに関しては全職員が結果を共有し支援に繋げている。家族会等で意見交換実施また家族へ電話にて近況連絡、意見を頂いたりしている	職員は家族等が面会に来た時には笑顔で挨拶し話しやすい環境作りに努めている。玄関に意見箱を設置している。利用者の生活の様子を文章と写真でも分かるよう「花水木岩瀬館だより」に掲載し、利用者ごとに手紙も添えて月1回送付している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は、全職員に意向調査を年1回実施。管理者は各種会議開催時や支援援助に入り、意見等聞くまた面談等で意見を取り入れている。	自立支援委員会、節約委員会、企画委員会などを設けそれぞれの意見を引き出しやすくしている。夏の入浴時に、暑さ対策に冷風機購入の提案があり購入している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則 給与規定等の完備している。 法人内でWEB研修用機材の整備あり 今後の研修に使用可能となる 法人独自の永年勤続表彰やコロナ予防対策慰労金の支給するなど働きやすい環境に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の個々合った研修への参加を目指している 外部の研修予定 参加後伝達研修実施 WEB研修にて研修参加		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の高齢福祉事業所との交流があり、研修や見学等実施している。地域交流はケアマネ会参加 サポーター養成講座参加やまた電話等でも交流している		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時の事前調査や家族様の意見等を確認。アセスメントをしっかりと行うことで利用者様の安心できる支援に努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者 介護支援専門員 計画作成担当者職員が連携し、ご家族様利用者様の要望に耳を傾けることにより意見交換をして関係性を構築している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前見学や事前調査の際、GHの説明を行い入所者様の安心安全な生活その方らしい生活ができるか考え対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様一人ひとりを理解し認め合い、共に生活するものとして、思いやりの気持ちを持ち、お互いに楽しめるような支援を心掛けている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月家族様に手紙で日頃の様子を伝えていく。体調の変化等あった場合は、電話にて連絡するなど家族様と連携を密にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍でご近所の友達等の面会ができなくなっている。市内の名所の写真を張り、思い出してもらっている。	入居前の相談や契約時に、本人や家族等からの聞き取りをフェイスシートに記録している。家族等と馴染みの美容室や外食に出かけたり、法事に参加している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気心の会った利用者様同士で会話を楽しんだり 職員が間に入り会話を盛り上げている。生活リハビリの中でお互いにお礼を伝えるなどしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族様に手紙を出したり、その後の様子を聞いたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	寄り添い合いながら本人の希望を把握し、本人の意思の尊重に努めている。カンファレンス、会議、申し送りノートにて職員の意識の共有に努めている。	意思疎通の困難な利用者に対しても表情や態度から思いを汲めるよう努めている。コミュニケーションをよくとって利用者の気持ちを汲み取るようにしている。聞き取った情報は申し送りノートを活用している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前調査や本人、家族、これまでに関係のあった機関より、情報得るなど生活環境の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	支援を行いながら一人一人に合った生活リハビリへ参加して頂き、能力を引き出す支援を心掛けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスの時はもとより、常時職員から意見を取り入れている。面会時にプランを説明の際、家族より意見をもらい、考慮したプラン作成に努めている。居室担当職員やカンファレンス等で評価、モニタリングしている。	カンファレンスは毎月開催し、6か月ごとにモニタリングを行っている。基本1年で見直しを行っているが、利用者の状況に変化があれば随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録をPCへ記入と変更した。些細な事でも記入することが多くなった。職員間の申し送りや昼礼の際 会議等で情報共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出支援が出来ない中、岩瀬館カフェの開催により、メニューから好きなものを選んだり おもてなし おもてなししてもらおう環境の変化を楽しんでもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出が出来ず、ボランティアの方も来れない状況である。季節の食材や草花を持ち寄り、季節感を味わって楽しんだりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医による月2回の訪問診療、週に1回の訪問看護があり医療機関と連携を保ち、受診後の結果を家族に報告、相談を行っている。本人家族の希望に添った対応を考えている	協力医療機関の医師による往診が月2回、訪問歯科診療が月1回ある。受診は必要に応じて行く。訪問看護師が毎週訪問している。受診の付き添いは原則家族等となっているが職員も同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週訪問看護があり、相談等出来ている。24時間オンコール体制であり、身体全体を観察して頂き、職員では把握しきれないところをカバーしてくれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に情報の提供を行っている。入院の際は看護師 ソウシャルワーカーと連携をとっている。退院時期等の連携を強めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に「重度化した場合における対応及び看取りに関する指針」の説明をしている。終末期が来た時に再度主治医から説明してもらい、改めて看取りに関する同意をもっている。訪問看護 医療機関 家族との連携強化している。	重度化や看取りに関する同意書があり、状況の変化に応じた繰り返しの話し合いと、段階的な合意を行なっている。年2回看護師とケアマネジャーによる研修を受けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	外部研修が出来なかったため、WEB研修にて受講している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練の実施。コロナ禍で消防署の立ち合い無し。通報訓練の実施を行っている。	年2回避難訓練を実施しているが夜間想定は行っていない。訓練の実施記録はあるが、反省と次回に向けた話し合いの記録を残すまでには至っていない。近隣住民の参加を得られていない。	夜間想定を含めた訓練を年2回実施し、反省と課題について話し合い記録に残すことを期待する。地元の消防団に事業所を見学してもらったり、地域住民の避難訓練等への参加を期待する。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様一人ひとりを理解し認め合い、共に生活するものとして、思いやりの気持ちを持ち、お互いに楽しめるような支援を心掛けている	職員は年1回研修を受けて、利用者の誇りやプライバシーを損ねない言葉かけに配慮している。個人情報に関する同意書があり、書類等は適切に保管されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話をしながら希望を聞きいたり、おやつを選ぶ、また散歩に行きたい、外に出たいなど選択できる支援を考えている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ゆったりした時間の中で生活している利用者様に合わせ、希望が表出できるまで待つて支援している。不自由なコロナ禍ですが、できる限り本人の希望に添った支援に繋げている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの服装の把握に努めたり 本人の意見を聞いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を取り入れて提供したり、美味しく食べて頂けるよう盛り付けの工夫や支援をしている。食後は食器拭きを皆様で行っています。	コロナ禍前は外食に出かけていたが、現在は週1回程度利用者と話し合って、昼食にお楽しみメニューの日を設け、食材を買いだして皆で作って楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分補給には、十分注意しています。摂取量の把握を必要な方には記録しながら必要量を摂取してもらっています。本人の状態に合わせ栄養管理を行い、身体に負担のないよう健康管理に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施。訪問歯科の際、歯科研修実施。その人に合ったケアの実施方法を聞いて参考にしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限りトイレで排泄できるよう支援している。ポータブルトイレ使用で失禁回数を減らすなど工夫している。排泄パターンを把握しながら誘導している	退院したらなるべく早くおむつから布パンツになるように支援している。夜間もできるだけトイレでの排泄を促し、自立に向けた支援を実施している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や運動を心掛け 服薬は医療機関と連携をとり、その方の排泄リズムを考えて支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間は決まってしまうが 本人の希望を取り入れ、その方に合った支援をしながら入浴してもらっている。	入浴は基本週2回午前中としているが、利用者の希望に沿って、できるだけいつでも入れるよう支援している。入浴剤は季節に合ったものを使用し、季節感を感じてもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間は安眠できるよう日中は、日光浴、体操など取り入れ活発に活動できるようにしている。午後は、30分から1時間の静養を取るようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	安全に服薬して頂くようダブルチェックをして服薬セット 服用時は必ず声に出し日に名前確認、飲み込み確認している。薬の変更があった時は申し送りノートに記入し職員全員は把握できるようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食後の片付け食器拭きを役割として行っています。カフェの開催時 ウエイター ウェイトレスをしてくださる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出支援が出来ない。出来れば季節感を実感できる外出支援を行いたい地域で行われるイベントに参加していきたい。ドライブ支援となっている	玄関の施錠はされておらず、利用者は自由に近隣の散歩や敷地内を散歩している。現在、買い物には出かけられないが職員とドライブに出かけている。以前は那珂川のアユを食べに行ったり、道の駅にソフトクリームを食べに出かけていた。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人的にお遣いを持参している方もいます、預かり金(小遣い)があり、買い物等一緒に言った場合は支払いをしてもらっています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により、電話で家族と会話しています。職員が毎月手紙で様子を伝えている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下には季節感の感じられる掲示物や地元の有名な観光名所の写真を掲示したり、季節の草花を飾っている	玄関にはベンチや椅子が設置されている。温度や湿度が適切に管理され事業所内は清潔に保たれている。居間兼食堂にはオープンデッキがあり、洗濯物を干したり、外気に触れたりできるようになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室は個室 共有スペースには、気の合った方々同士がくつろげるスペースを用意している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人 ご家族様と相談しながら自宅を使っていた物を用意していただけるよう支援している。居室担当職員とともに利用者様が居室の整理を行っている。	自宅同様に過ごせるよう、使い慣れたものの持ち込みを説明し、家庭で使用していた布団や食器などを持ち込んでいる。居室にはエアコンやベッド、洗面台、カーテン等が備え付けられている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安心安全な場となるよう工夫している。トイレの場所が分かるよう大きな文字で張り、状態に合わせ支援している		

(別紙4 (2))

目標達成計画

事業所名 花水木岩瀬館

作成日 令和 3 年 9 月 1 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに次のステップへ向けて取り組む目標を職員一同で話し合いながら作成します。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	4	運営推進会議現在はコロナ禍により書面での開催となっている。委員の意見のやり取りができていない。	書面に意見用の用紙は郵送しているので、活用していく。	地域に根差したホームになる。身体拘束関係等の意見を頂けるよう、意見書にケアマネやリーダー等から質問や問題提起し意見のやり取りができるようにする。	2ヶ月
2	35	夜間想定避難訓練が行っていない。訓練後の反省次回に向けた話し合いが出来ていない。地域住民の避難訓練への参加を期待する。	避難訓練後は、時間を設け反省次回に向けた話し合いを実施する。夜間想定避難訓練実施。地域住民の参加はコロナ禍終息後状況を見る。	訓練後の反省会の実施 夜間想定避難訓練は、2階よりどのように避難するか職員で検討後実施する。(職員が利用者になり階段を下りるなど) 地域住民参加は、運営推進会議等で意見を聞き参考にする	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注1) 項目番号の欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。